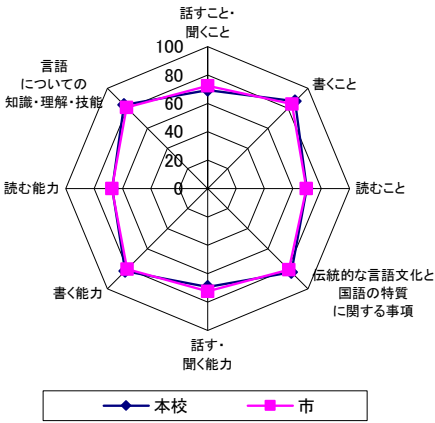


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.4	72.4	70.5
	書くこと	86.9	84.1	70.0
	読むこと	69.8	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.3	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	69.4	72.4	70.5
	書く能力	82.2	80.2	68.0
	読む能力	67.3	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	83.3	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は69.4%で市平均を3.0ポイント下回っている更に、前年度の82.3%をも大きく下回っている。 ○話の内容を正確に聞き取ることにについては、比較的よくできている。 ●話の展開に注意して聞き取り、相手の考えを尊重して役割を果たしたり、話の論理的な構成や展開を聞き取り、それを反映させた意見を述べたり、発表することに関しては半分にも満たない状況である。更に、全ての領域について市平均を下回っている。	○今年度は休業期間中や授業隊形の制約等もあり、意見の交換や話すことの機会が著しく減ってしまったことも、この状況の一因かもしれない。しかし同様の状況下でもしっかりと身についているところもあることを考えると、今後はグループ学習を想定しての司会者としての役割や、お互いの考えを伝える工夫や話し方・説明の仕方の工夫について指導する必要がある。
書くこと	平均正答率は86.9%と市平均84.1%を2.8ポイント上回っている。「書く」ことに対する苦手意識はあまりないようである。 ○特に「作文」は条件を踏まえて、自分の考えを書くことについては、80%以上の高い数値を示し、市平均を大幅に上回っている。また、与えられた資料の特徴を書くことについては、90%を超えている。 ●聞き手の意見を反映させて、文章の論理的な構成や展開を考えて発表原稿を作るなど、他の領域と関連させて考えて書くことでは、45.4%と低い値である。	○引き続き早い段階で、作文の書き方をしっかりと身に付けさせる。また、説明的文章や小説の読解などの授業でも、自分の立場を明確にした意見文を書いたり、理由や根拠を挙げて書くことを意識させた課題などを提示していく。そして、スピーチ原稿の作成のためのコミュニケーション力も身に付けさせる。また、意見文や資料を読み取っての作文指導も入試対策と絡めながら、書く機会を増やしていく。
読むこと	平均正答率は67.3%と市平均をやや下回っている。この領域と話すこと・聞くことが60%台であり、残りの2領域が80%を超えていることと比べると、非常に極端な結果である。 ○説明文の読み取りでは、文章の展開に即して内容を捉えることが78.3%と市の平均を7.4ポイント上回っている。 ●文学作品の読み取りでは、登場人物の人物像を捉えることが苦手である生徒が多く、46.2%と低い。	○説明文や文学作品等の長文読解では、文章に即した要旨を捉えること、登場人物の心情や情景描写に注目して読み取りを行わせる。また、段落相互の関係や接続詞などにも注意して構成を捉える機会を増やす。中でも、文学作品の読み取る力を伸ばすために、良い文章に触れるための読書活動の推進、更には選書についても学校図書館司書と連携して指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、83.3%と市の平均を2.5ポイント上回っている。しかし、出題内容によっては、100%という高い正答率のものもあれば、わずかではあるが市平均を下回るものもあり、その差が著しい。 ○漢字の読み・書きについては、概ねしっかりと書くことができる。用言の活用や対義語などについても市の平均を上回っている。 ●同音異義語、同訓異義語の書きが苦手であり、また、文法(品詞の分類・敬語)については、しっかりとした理解ができていないようである。	○語彙力・漢字の読み書きの力は、教育活動全般に関わるものなので、今後も漢字の意味を理解させながら、繰り返し学習する機会を確実にとる。 文法に関しては、既習事項を忘れてしまっていたり、単体では分かっても文法全般の応用になると分からなくなってしまうようである。折りに触れて復習する機会を設ける。更に、文法ノートを作ることで、絶えず文法学習の見直しができるようにし、継続的に学習が行われるようにしていく。